

学校評価について

学校評価とは

専修学校は、教育の質の改善及び充実を図るため、自己評価の実施と公表の義務化、学校関係者評価の実施・公表が努力義務化されています。

本校におきましても学校評価を実施し、評価結果を基に検討、改善することで特色ある専修学校作りの推進に努めております。

自己評価及び学校関係者評価の結果は以下の通りです。

令和3年度の取り組みと評価

<学校関係者評価委員会>

令和4年3月16日(水)：第7回学校関係者評価委員会実施いたしました。

評価者：学校関係者評価委員6名 参加者：学校長以下4名

以下評価コメント(一部抜粋)

「I 教育理念・目的・人材育成像」について

地域に貢献できる看護師の育成を目指した理念・目的・目標は定められ、社会ニーズをふまえた甕島での研修は、高い評価を得たが、学校としてもっとアピールすべきである。

「II 学校運営」について

運営方針や事業計画の策定においては評価できるが、教育活動での情報公開でR3年度の講師会議が開催されなかったこと及びICT整備の進展がないことが課題である。今後はICTの活用を進め業務の効率化を図ってほしい。

「III 教育活動」について

目標の設定や教育方法・評価方法は、毎年課題とされたことを基に創意工夫し、進化している。次年度から、学生の実習アンケート結果を関連施設と共有していく学校の方針に対して高く評価する。また、国家試験のカリキュラム内への位置づけは令和4年度から開始するので期待する。

「IV 学修成果」について

国家試験や就職率は、高く評価できる。退学率の低減に関しては、比較すべき資料がないので判断できない。また、卒業生への評価は、令和4年4月から同窓会を設立し、活動していくことに期待したい。

「V 学生支援」について

進路就職支援に関しては、定着してきている。卒業生への支援も「ホームカミングデイ」を設けて支援しようとしている。社会人への入試や入学後の子どもの行事への配慮もできているが、保護者との連携が一部に限られ、全体が見えない。また、教育環境は、甕島での研修など、評価できるが、新しい医療機器を揃えるなど、教育に必要な物品を整えてほしい。

「VII 学生募集」について

地域貢献をもっとアピールできるよう工夫が必要。学生負担を考慮し、甕島研修や霧島への送迎は学校がすべて負担しているのは評価できる。

「IX 社会貢献・地域貢献」について

法令遵守等はできているが、今年度はコロナ禍で地域貢献やボランティア活動が実施できていないが、知恵を出し合い計画的に運用してほしい。地域への研修活動等も期待している。

前年度と比較し、評価平均がわずかに上昇している。過去3年間では、最も高い。特に「学修成果」は、本校で最も低い評価点であるが毎年徐々に上昇している。これは、国家試験の合格率などへの評価と言えるが、学校運営や社会貢献の項目では課題が残る結果となった。

(令和4年度の取り組み)

- ①ICTを活用した情報システム化等による業務の効率化への取り組み。
- ②卒業生へのアプローチとしてホームカミングデイの実施、同窓会運営への支援。
- ③保護者と学校、臨床施設と学校の円滑な連携を図る仕組みを作る。
- ④学生募集は、募集要項やポスター等で学校の特徴を伝える工夫及び職業実践専門課程としての認定校の申請。

⑤退学者の減少を図るため、詳細な分析を行い、支援方法の充実を図る。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(令和4年3月16日)

5点満点評価

評価項目 (*評価大項目及び付随する小項目内容・項目数)	H29 年度	H30 年度	課程 変更	R1 年度	R2 年度	R3 年度
	平均 評点	平均 評点		平均 評点	平均 評点	平均 評点
I、教育理念・教育目的・人材育成像 *学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	4.8	4.8		4.4	4.7	4.8
II、学校運営 *目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	4.9	5.0		4.5	4.5	4.3
III 教育活動 *目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.2	4.6		4.2	4.5	4.7
IV 学修成果 *資格取得率の向上が図られているか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し 教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.3	2.4		2.6	3.7	4.0
V 学生支援 *進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.1	4.2		3.3	4.5	4.5
VI 教育環境 *施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	4.7	5.0		5.0	5.0	5.0
VII 学生募集 *学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	4.8	4.8		4.6	4.7	4.9
VIII 法令等の遵守 *法令、専修学校設備基準等の遵守と適正な運営等 4項目	4.8	4.7		4.8	5.0	5.0
IX 社会貢献 地域貢献 *学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	4.7	5.0		4.5	4.2	4.1
総項目平均評価点	4.4	4.5		4.2	4.53	4.58

教員自己評価 (令和4年1月末実施)

<教員自己評価>

5点満点評価

各評価内容別平均値での比較		H29	H30	課程 変更	R1	R2	R3
I、教育課程 教授活動	1. 授業	3.4	3.4			3.8	3.6
	2. 実習	3.3	3.3		3.5	3.3	3.3
	3. 学級運営・指導	3.4	3.3		3.5	3.3	3.3
	4. 資格試験	3.3	3.2		3.1	2.9	3.3
	5. 行事・他	3.4	3.4		3.8	3.4	3.5
II、研究・研修	6. 研究・研修	3.2	3.4		3.3	2.8	2.5
III、組織運営 広報活動	7. 組織運営	3.4	3.6		3.6	3.4	3.5
	8. 学生募集	3.4	3.1		3.5	3.3	3.4
	9. 施設設備	3.5	3.6		3.9	3.4	3.7
総合平均点		3.4	3.4		3.5	3.3	3.4

教員自己評価では、「Ⅰ,教育課程・教授活動」が21項目、「Ⅱ,研究・研鑽」が3項目、「Ⅲ,組織運営・広報」が11項目、3分野35項目について5段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

令和3年度教員自己評価結果（一部抜粋）

1. 「授業」に関しては、それぞれに工夫をこらし相互に協力して授業展開したが、経験の短い教員は授業計画の立案に苦勞することが多かった。授業研究や研修を受け、授業内容の充実を図ることや今年度から取り組み始めたシミュレーション教育を今後も継続していきたい。
2. 「実習」に関しては、コロナ禍で、学内実習（精神・老年）に切り替わることもあり、準備が間に合わず複雑な状況になった。また、臨地実習ができて期間が短くなり目標到達困難となったため、目標をしぼり、実施させる必要があった。学内実習では、シミュレーターを使用し、リアルな演習ができた。また、実習評価に迷うことがあるので客観性のあるルブリック評価等の導入を検討したい。
3. 「学級運営・学生指導」については、新しい教員は、個別的な学生指導や担任・副担任の役割は、戸惑うこともあったが、今年度はクラス運営の体制として、各学年に補佐をつけ1学年3名の教員で関わるようにしたことで報告・連絡・相談ができ、連携が図れた。学生の健康管理については、感染予防に努め、学生の行動チェック、体調管理は、季節休暇中も継続して実施し、コロナ感染者はいなかった。
4. 「資格試験」に関しては、国家試験担当を中心に年度初めから計画を立て実施した。1.2年生の国試対策として、模擬試験や解剖生理の学習など計画的に実施できた。3年生に関しても計画に基づきその都度評価しながら実施できた。また、成績低迷者への指導は季節休暇中や後期は放課後に少人数に分かれ学習した。感染予防のため自宅学習の際は、オンライン学習も実施して学生に安心感を与えることができた。ただ、教員全員で国試に対応したという意識は十分とは言えない。
5. 「行事・他」に関しては、コロナ禍であったため多くが中止になった。看護の日特別講演は、会場を分散して実施できた。戴灯式は縮小して行われ、良い記念になった。行事（入学式）等も上級生にはオンラインで実施した。教員間の連携は、図れていた。
6. 「研究」は計画的に進めることができず、また研修参加もばらつきがみられた。ここ数年の最大の課題である。計画的に研修を受け、教員の質の向上に努めたい。
7. 「組織運営」としては、教員経験が短い職員が過半数を占めるため、組織全体をみて行動するには至っていないが、連携を図り組織に適応するための努力はできた。互いに尊重しながら行動しているが、自分の課題をこなすのに精一杯であるという意見が多い。体調不良で欠勤する教員もいた。時間内で業務が遂行できるような環境作りが必要である。
8. 「学生募集」今年度は、コロナ禍のため学校訪問の機会は減少した。ホームページに学校での様子を頻繁にアップした。みらいワークかごしまに参加したり、TVの取材を依頼したりと本校の知名度を上げるための努力はしているが効果が低い。次年度は、Instagram等で学校の様子を伝えていきたい。

総合平均点は、昨年より若干上昇している。授業と実習学級運営に関しては、変化なく、資格試験と施設整備に関しては上昇がみられている。資格試験に関しては、3年課程開校後、初めての受験になるため係を中心に計画的に活動できた。昨年同様コロナ禍のため研修の機会が減少したことや計画的な動きをしなかったため低値を示している。次年度の課題とする。